

出典：「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」（エコ・パワー株式会社、平成 28 年）を加工

図 3.1-27 鳥類に関する船舶トランセクト、洋上定点及び陸上定点調査位置

表 3.1-42 洋上調査で確認された鳥類一覧

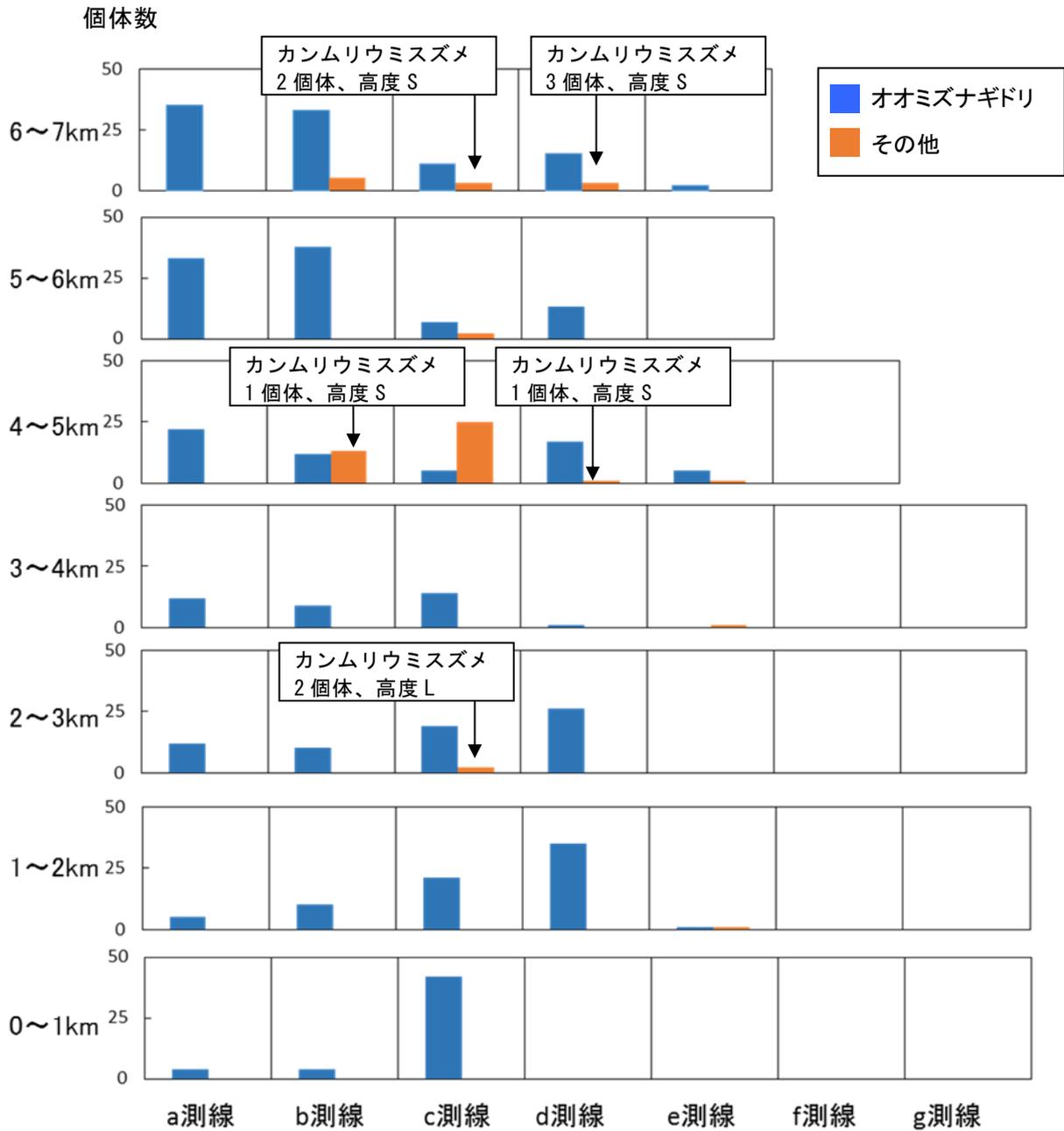
NO.	目	科	種	船舶 トラン セクト	洋上 定点	船舶 トラン セクト	船舶 トラン セクト	船舶 トラン セクト	洋上 定点	船舶 トラン セクト	洋上 定点	指定状況				
				春季 (5月)	繁殖期 (7月)	夏季 (8月)	秋季 (9月)	冬季 (1月)	A	B	C	D				
1	ミズナギドリ	ミズナギドリ	オオミズナギドリ	473	111	1,204	557	53	209							
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ							1					NT	
3			ウミウ		2					5						
4	カツオドリ	ウ	ヒメウ							2	1			EN		
5			ウ属の一種							16						
6	カモ	カモ	ウミアイサ							2						
7	コウノトリ	サギ	アオサギ	2		4										
8			ウミネコ			3	27	23	13	33	38					
9		カモメ	セグロカモメ				1		1	21	16					
10			オオセグロカモメ							11	87					
11			カモメ属の一種							25						
12	チドリ	トウゾクカモメ	トウゾクカモメ科の一種	1												
13		シギ	アカエリヒレアシシギ	37	14											
14			ヒレアシシギ属の一種	5			15									
15		ウミスズメ	カンムリウミスズメ	9						3			国天	VU	CR	
16			ウミスズメ属の一種							6						
17		タカ	トビ	1	1											
18	タカ	ハヤブサ	ハヤブサ					1						国内	VU	VU
19		ミサゴ	ミサゴ						1		4				NT	NT
20			ツバメ					9	3							
21	スズメ	ツバメ	アマツバメ科の一種	2												
計	8目13科16種			530	128	1,211	600	86	227	125	146	1種	1種	4種	4種	
				9種		3種	4種	6種		12種						

注1) 単位は個体数、種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 平成24年)に準拠した。
 注2) 「～科」については、同一の分類群に属する種が確認されている場合には種数に計上しない。

【指定状況】

- A: 「文化財保護法」により指定されているもの
- 国特天: 国指定特別天然記念物 国天: 国指定天然記念物
- B: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」において指定されている種及び亜種
- 国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種
- C: 「環境省レッドリスト(平成18年12月22日報道発表資料)」に記載されている種及び亜種
- EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA類 EN: 絶滅危惧 IB類 VU: 絶滅危惧 II類
- NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群
- D: 「福岡県の希少野生動物-福岡県レッドデータブック 2011-」(福岡県, 平成23年)に記載されている種及び亜種
- EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA類 EN: 絶滅危惧 IB類 VU: 絶滅危惧 II類
- NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

出典: 「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成28年)



注) 高度区分; 高度 S: 0m (海面) L: 0m 以上 22m 未満
 M: 22m 以上 123m 未満 H: 123m 以上

出典:「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究
 -環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)

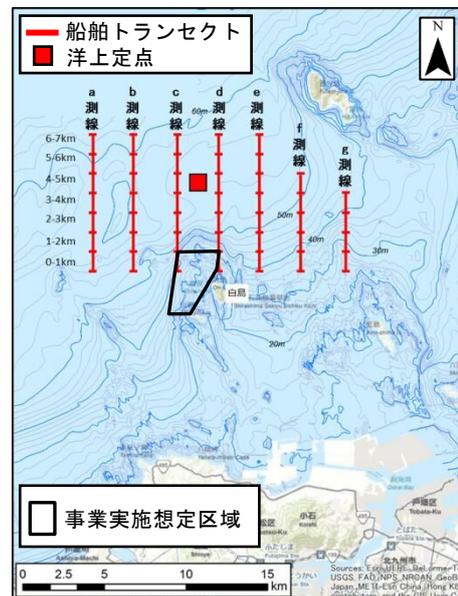
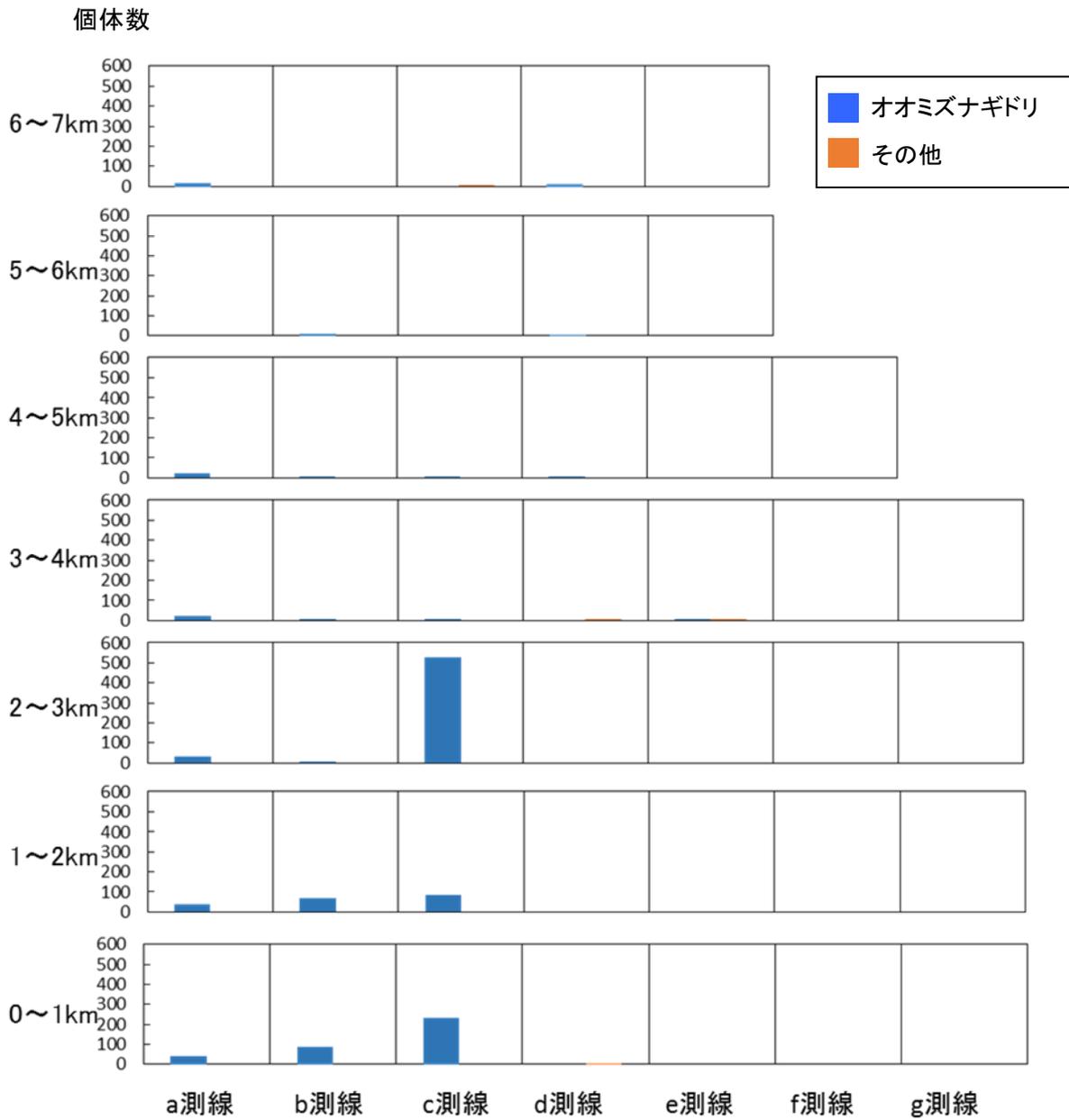
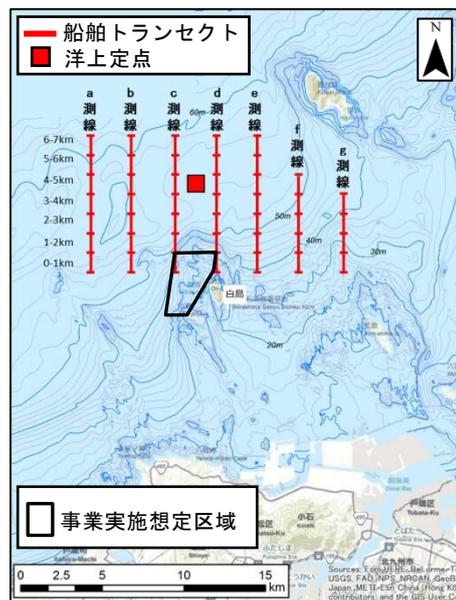


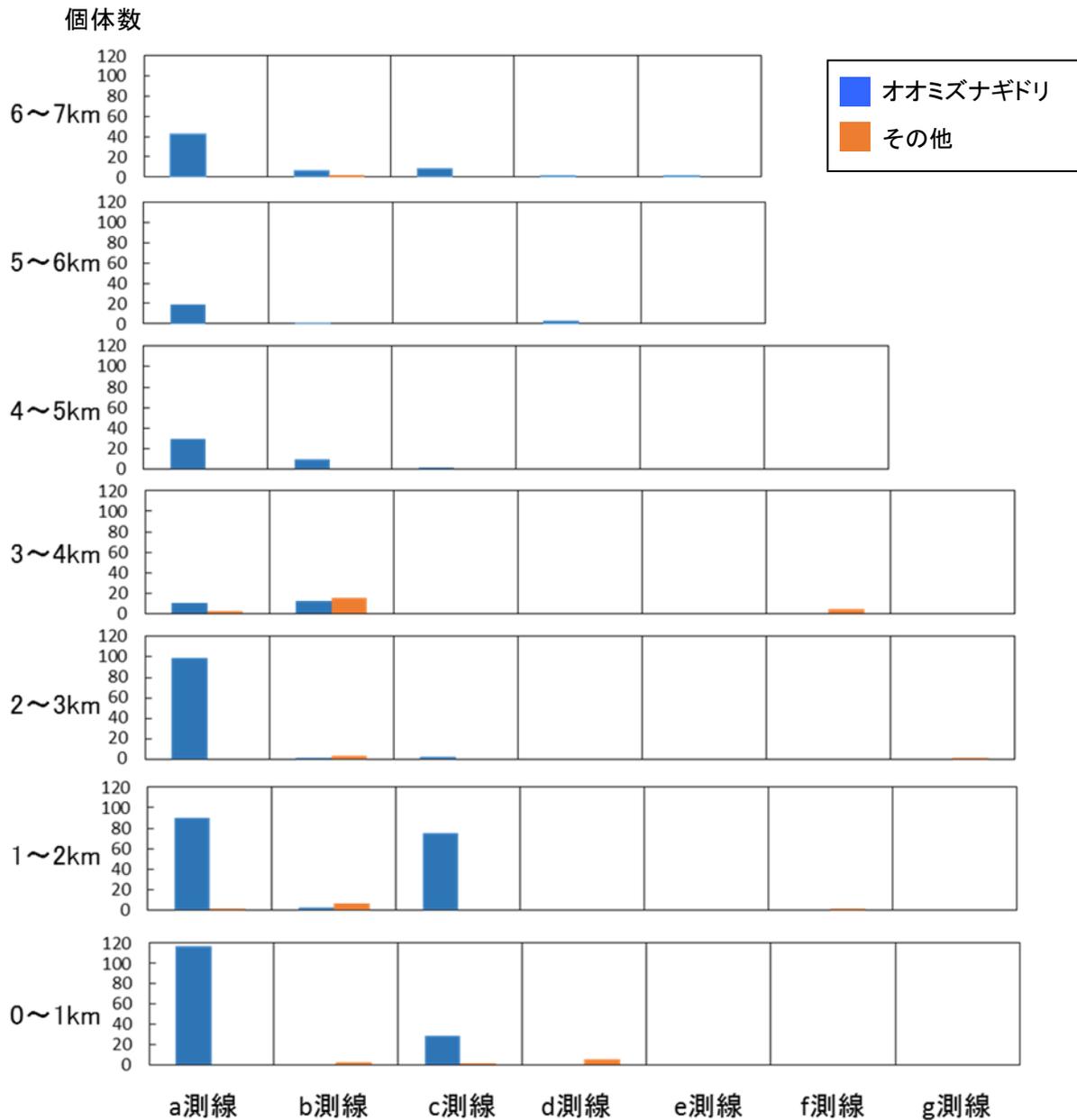
図 3.1-28 測線別・距離区分別の出現状況
 (春季)
 (上図: 出現個体数、右図: 調査測線)



出典:「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)

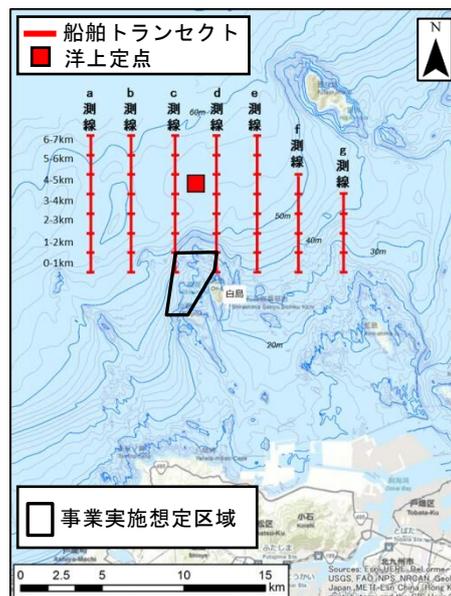
図 3.1-29 測線別・距離区分別の出現状況
(繁殖期)
(上図: 出現個体数、右図: 調査測線)

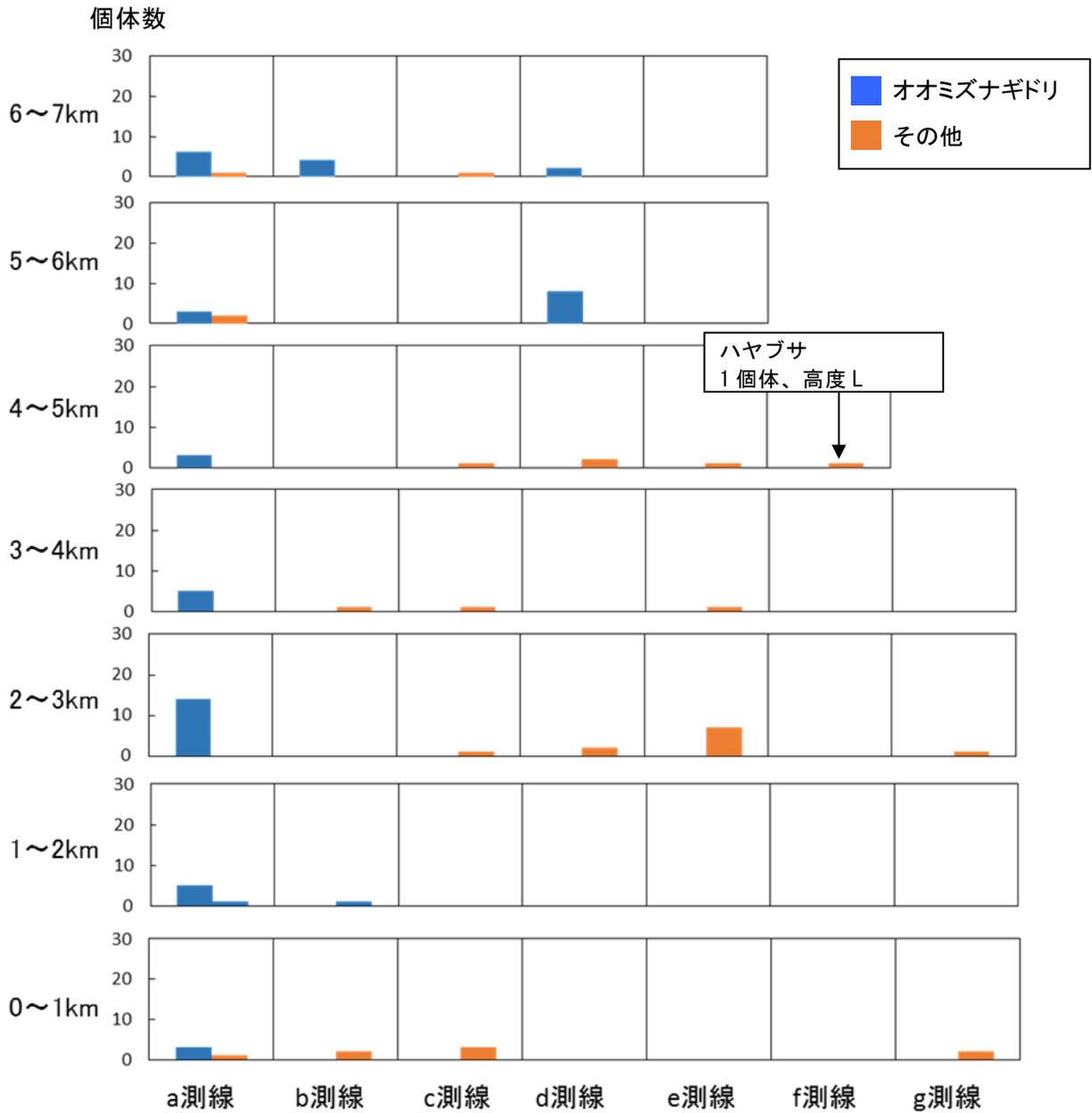




出典:「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究
-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)

図 3.1-30 測線別・距離区分別の出現状況
(夏季)
(上図: 出現個体数、右図: 調査測線)

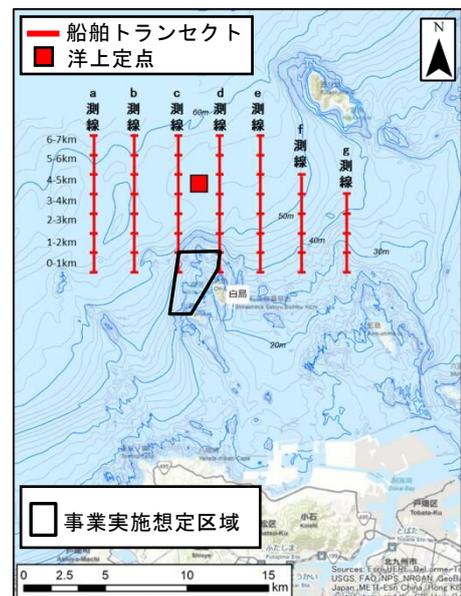


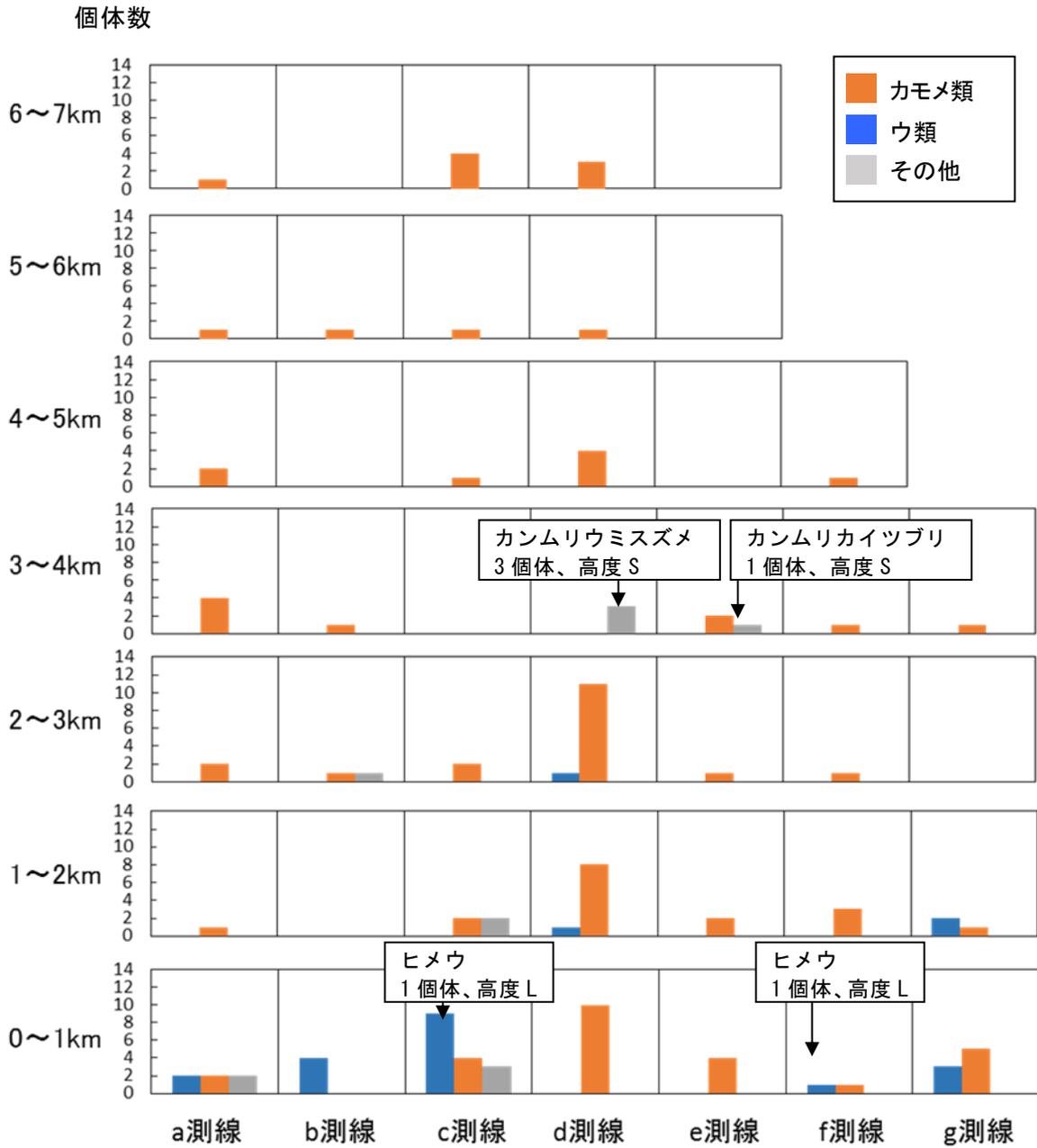


注) 高度区分; 高度 S : 0m (海面) L : 0m 以上 22m 未満
M : 22m 以上 123m 未満 H : 123m 以上

出典: 「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)

図 3.1-31 測線別・距離区分別の出現状況
(秋季)
(上図: 出現個体数、右図: 調査測線)





注) 高度区分; 高度 S: 0m (海面) L: 0m 以上 22m 未満
M: 22m 以上 123m 未満 H: 123m 以上

出典: 「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究
-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)

図 3.1-32 測線別・距離区分別の出現状況
(冬季)
(上図: 出現個体数、右図: 調査測線)

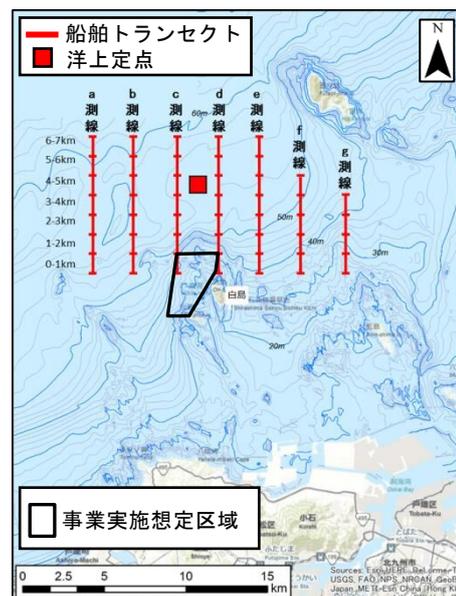


表 3.1-43 陸上定点調査で確認された鳥類一覧

NO.	目	科	種	陸上定点		指定状況			
				5月	9月	A	B	C	D
						天然記念物	種の保存法	環境省 R L	福岡県 R D B
1	タカ	タカ	ミサゴ	7				NT	
2			ハチクマ	12	364			NT	NT
3			オオタカ	1	3		国内	NT	NT
4			ツミ	2	2				VU
5			ノスリ	1	2				NT
6			サシバ	9	3			VU	NT
7			チュウヒ	3				EN	CR
8			ハヤブサ	ハヤブサ	1	1		国内	VU
9		チョウゲンボウ			3				
10	アマツバメ	アマツバメ	12	7					
11		ハリオアマツバメ	5	1					
12	スズメ	ツバメ	コシアカツバメ	2	25				NT
13			ツバメ		146				
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	53					
15		ヒタキ	キビタキ		1				
16			オオルリ		3				NT
17			サメビタキ		2				
18	メジロ	メジロ		3					
計	3目7科18種			108	566		2種	6種	9種
				12種	15種				

注1) 単位は個体数、種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 平成24年)に準拠した。
 注2) 「～科」については、同一の分類群に属する種が確認されている場合には種数に計上しない。

【指定状況】

A: 「文化財保護法」により指定されているもの
 国特天: 国指定特別天然記念物 国天: 国指定天然記念物
 B: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」において指定されている種及び亜種
 国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種
 C: 「環境省レッドリスト(平成18年12月22日報道発表資料)」に記載されている種及び亜種
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類
 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群
 D: 「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」(福岡県, 平成23年)に記載されている種及び亜種
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類
 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

出典: 「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成28年)

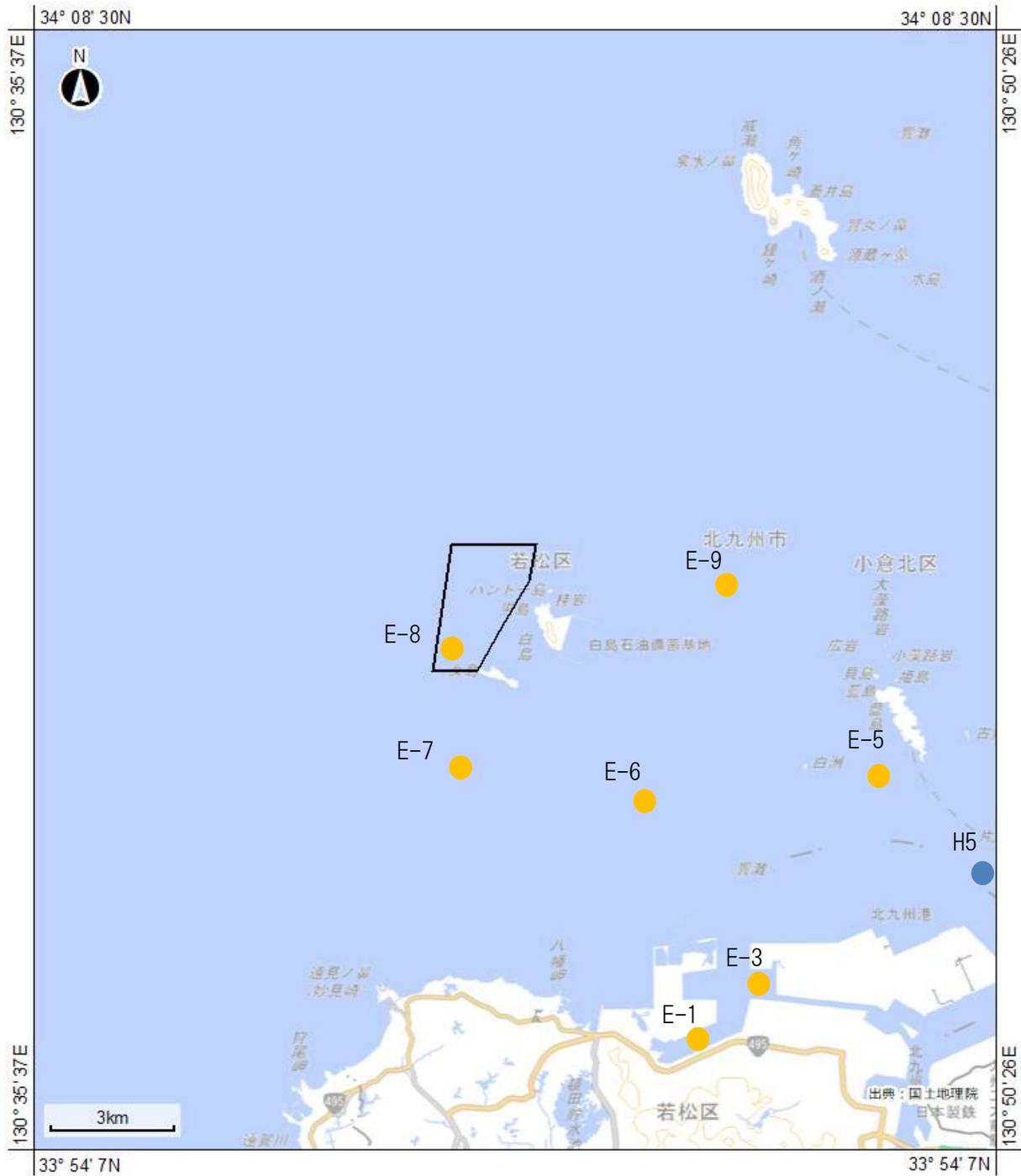
(2) 海域における動物

① 動物プランクトンの状況

事業実施想定区域周辺については、北九州市若松区沿岸部において、平成 25 年 5 月、7 月、10 月及び 12 月に北九州市環境局により調査が行われている。調査地点を図 3.1-33 に、調査結果を表 3.1-44～表 3.1-45 に示す。

事業実施想定区域内の地点 (E-8) における季節ごとの出現種数は 24～32 種で夏季に少なく、秋季に多い。個体数については 4,907 個体/m²～38,076 個体/m² で夏季に多く、秋季に少ない。出現種については、いずれの季節も節足動物門の割合が高くなっている。

また、北九州市環境局が毎年、響灘 (測定点 H5) においてプランクトン調査を実施している。令和 5 年度調査の動物プランクトンの結果を表 3.1-46 に示す。繊毛虫類及び、その他の微小プランクトンが確認されている。



凡例

- 動植物プランクトン調査地点（北九州市環境局*1）
- 事業実施想定区域
- 動植物プランクトン調査地点（北九州市環境局*2）

出典：*1「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

*2「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市環境局）

図 3.1-33 動植物プランクトンの調査地点

表 3.1-44 動物プランクトンの調査結果 (1/3)

【春季】 調査時期：平成25年5月18日

調査地点		E-1	E-3	E-5	E-6
種類数		30	18	36	22
個体数 (個体/m ³)		48,328	17,625	45,097	8,558
沈殿量 (mL/m ³)		6.32	8.74	5.07	10.92
個体数	節足動物門	20,014 (41.4%)	13,007 (73.8%)	31,925 (70.8%)	4,965 (58.0%)
	脊索動物門	5,691 (11.8%)	840 (4.8%)	709 (1.6%)	1,954 (22.8%)
	幼生類	3,603 (7.5%)	1,889 (10.7%)	5,574 (12.4%)	1,427 (16.7%)
	その他	19,020 (39.4%)	1,889 (10.7%)	6,889 (15.3%)	212 (2.5%)
	合計	48,328 (100.0%)	17,625 (100.0%)	45,097 (100.0%)	8,558 (100.0%)
主な出現種	優占1位	<i>Favella ehrenbergii</i> 繊毛虫類 (21.1%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (44.0%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (53.0%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (29.0%)
	優占2位	Copepodite of Acartia かいあし類 (16.2%)	Copepodite of Acartia かいあし類 (20.2%)	Copepodite of Acartia かいあし類 (7.9%)	Doliolum spp. 脊索動物 (22.2%)
	優占3位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (16.2%)	<i>Codoneillopsis nipponica</i> 繊毛虫類 (7.1%)	<i>Codoneillopsis nipponica</i> 繊毛虫類 (6.5%)	Copepodite of Acartia かいあし類 (10.5%)

調査地点		E-7	E-8	E-9
種類数		21	27	29
個体数 (個体/m ³)		11,669	29,814	15,495
沈殿量 (mL/m ³)		22.74	17.35	5.00
個体数	節足動物門	4,380 (37.5%)	19,007 (63.8%)	12,219 (78.9%)
	脊索動物門	6,823 (58.5%)	9,780 (32.8%)	1,691 (10.9%)
	幼生類	400 (3.4%)	790 (2.6%)	1,038 (6.7%)
	その他	66 (0.6%)	237 (0.8%)	547 (3.5%)
	合計	11,669 (100.0%)	29,814 (36.2%)	15,495 (100.0%)
主な出現種	優占1位	<i>Doliolum</i> spp. 脊索動物 (57.3%)	<i>Doliolum</i> spp. 脊索動物 (31.7%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (44.0%)
	優占2位	Copepodite of Acartia かいあし類 (11.5%)	Copepodite of Acartia かいあし類 (21.2%)	Copepodite of Acartia かいあし類 (18.7%)
	優占3位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (9.7%)	<i>Acartia omorii</i> かいあし類 (12.7%)	<i>Doliolum</i> spp. 脊索動物 (8.4%)

【夏季】 調査時期：平成25年7月23日

調査地点		E-1	E-3	E-5	E-6
種類数		26	29	25	32
個体数 (個体/m ³)		66,346	43,149	42,223	32,464
沈殿量 (mL/m ³)		25.04	8.29	3.33	16.97
個体数	節足動物門	33,940 (51.2%)	21,540 (49.9%)	33,665 (79.7%)	24,971 (76.9%)
	脊索動物門	7,145 (10.8%)	9,843 (22.8%)	285 (0.7%)	2,644 (8.1%)
	幼生類	22,711 (34.2%)	8,272 (19.2%)	4,850 (11.5%)	1,666 (5.1%)
	その他	2,550 (3.8%)	3,494 (8.1%)	3,423 (8.1%)	3,183 (9.8%)
	合計	66,346 (100.0%)	43,149 (100.0%)	42,223 (100.0%)	32,464 (100.0%)
主な出現種	優占1位	<i>Oithona davisae</i> かいあし類 (22.3%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (27.1%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (29.7%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (33.8%)
	優占2位	Umbo larva of BIVALVIA 卵・幼生類 (20.0%)	<i>Oithona davisae</i> かいあし類 (13.2%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (19.6%)	<i>Oithona nana</i> かいあし類 (13.9%)
	優占3位	Copepodite of Oithona かいあし類 (17.7%)	<i>Fritillaria</i> spp. 脊索動物 (13.2%)	<i>Oithona davisae</i> かいあし類 (12.2%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (9.1%)

調査地点		E-7	E-8	E-9
種類数		30	24	27
個体数 (個体/m ³)		18,122	38,076	39,433
沈殿量 (mL/m ³)		7.70	13.02	10.66
個体数	節足動物門	14,553 (80.3%)	30,159 (79.2%)	34,340 (87.1%)
	脊索動物門	714 (3.9%)	2,170 (5.7%)	1,175 (3.0%)
	幼生類	1,086 (6.0%)	4,013 (10.5%)	2,350 (6.0%)
	その他	1,769 (9.8%)	1,734 (4.6%)	1,568 (4.0%)
	合計	18,122 (100.0%)	38,076 (100.0%)	39,433 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (27.6%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (33.6%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (53.0%)
	優占2位	Copepodite of Oithona かいあし類 (23.6%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (18.5%)	<i>Oithona nana</i> かいあし類 (12.6%)
	優占3位	<i>Oithona nana</i> かいあし類 (8.7%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (7.1%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (7.6%)

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

表 3.1-45 動物プランクトンの調査結果 (2/3)

【秋季】 調査時期：平成25年10月18日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	27	29	34	32	
個体数 (個体/m ³)	33,604	68,934	36,993	8,316	
沈殿量 (mL/m ³)	3.64	6.83	3.66	1.20	
個体数	節足動物門	26,841 (79.9%)	44,715 (64.9%)	25,705 (69.5%)	6,282 (75.5%)
	脊索動物門	2,291 (6.8%)	6,894 (10.0%)	3,263 (8.8%)	339 (4.1%)
	幼生類	4,036 (12.0%)	15,090 (21.9%)	7,359 (19.9%)	1,188 (14.3%)
	その他	436 (1.3%)	2,235 (3.2%)	666 (1.8%)	507 (6.1%)
	合計	33,604 (100.0%)	68,934 (100.0%)	36,993 (100.0%)	8,316 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Copepodite of Oithona かいあし類 (25.7%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (19.5%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (36.6%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (22.5%)
	優占2位	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (16.2%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (18.9%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (10.8%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (18.4%)
	優占3位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (15.9%)	Umbo larva of BIVALVIA 卵・幼生類 (12.4%)	Umbo larva of BIVALVIA 卵・幼生類 (8.1%) Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (8.1%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (17.9%)

調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	29	32	44	
個体数 (個体/m ³)	7,755	4,907	10,408	
沈殿量 (mL/m ³)	1.03	1.32	2.05	
個体数	節足動物門	5,761 (74.3%)	3,707 (75.5%)	8,357 (80.3%)
	脊索動物門	44 (0.6%)	68 (1.4%)	148 (1.4%)
	幼生類	1,152 (14.9%)	618 (12.6%)	1,231 (11.8%)
	その他	798 (10.3%)	514 (10.5%)	672 (6.5%)
	合計	7,755 (100.0%)	4,907 (100.0%)	10,408 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (30.3%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (28.0%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (25.8%)
	優占2位	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (17.7%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (25.2%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (20.1%)
	優占3位	Copepodite of Oithona かいあし類 (9.7%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (9.1%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (7.2%)

【冬季】 調査時期：平成25年12月5日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	27	22	26	32	
個体数 (個体/m ³)	22,133	18,268	2,066	11,810	
沈殿量 (mL/m ³)	2.47	1.50	0.51	1.28	
個体数	節足動物門	19,865 (89.8%)	17,350 (95.0%)	1,680 (81.3%)	10,760 (91.1%)
	脊索動物門	1,060 (4.8%)	234 (1.3%)	152 (7.4%)	245 (2.1%)
	幼生類	636 (2.9%)	684 (3.7%)	158 (7.6%)	560 (4.7%)
	その他	572 (2.6%)	0 (0.0%)	76 (3.7%)	245 (2.1%)
	合計	22,133 (100.0%)	18,268 (100.0%)	2,066 (100.0%)	11,810 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (40.7%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (44.9%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (27.6%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (29.3%)
	優占2位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (28.7%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (33.0%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (24.9%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (28.4%)
	優占3位	Copepodite of Oithona かいあし類 (12.5%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (6.9%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (12.9%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (18.9%)

調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	29	31	28	
個体数 (個体/m ³)	8,940	6,157	10,140	
沈殿量 (mL/m ³)	2.14	0.83	0.91	
個体数	節足動物門	8,380 (93.7%)	5,661 (91.9%)	9,688 (95.5%)
	脊索動物門	80 (0.9%)	76 (1.2%)	136 (1.3%)
	幼生類	280 (3.1%)	306 (5.0%)	181 (1.8%)
	その他	200 (2.2%)	114 (1.9%)	135 (1.3%)
	合計	8,940 (100.0%)	6,157 (100.0%)	10,140 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (25.6%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (34.2%)	Copepodite of Paracalanidae かいあし類 (32.1%)
	優占2位	Copepodite of Oithona かいあし類 (17.9%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (14.9%)	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (16.5%)
	優占3位	Nauplius of COPEPODA かいあし類 (17.5%)	Copepodite of Oithona かいあし類 (9.9%)	Paracalanus crassirostris かいあし類 (13.4%)

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

表 3.1-46 動物プランクトンの調査結果 (3/3)

水域名：響灘

測定点：H5 表層

測定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
繊毛虫類	メソディニウム					●			●				
	ストロビリディウム								●				
	その他		●			●			●			●	
その他の微小プランクトン			●●			●●			●			●	

プランクトン細胞数 (細胞/mL)

0 = 0 < < 10 10 ≤ < 100

100 ≤ < 1,000 1,000 ≤ < 10,000 10,000 ≤

(注) その他の微小プランクトンには植物プランクトンも含まれている。

出典：「令和6年度版 北九州市の環境」(北九州市環境局)

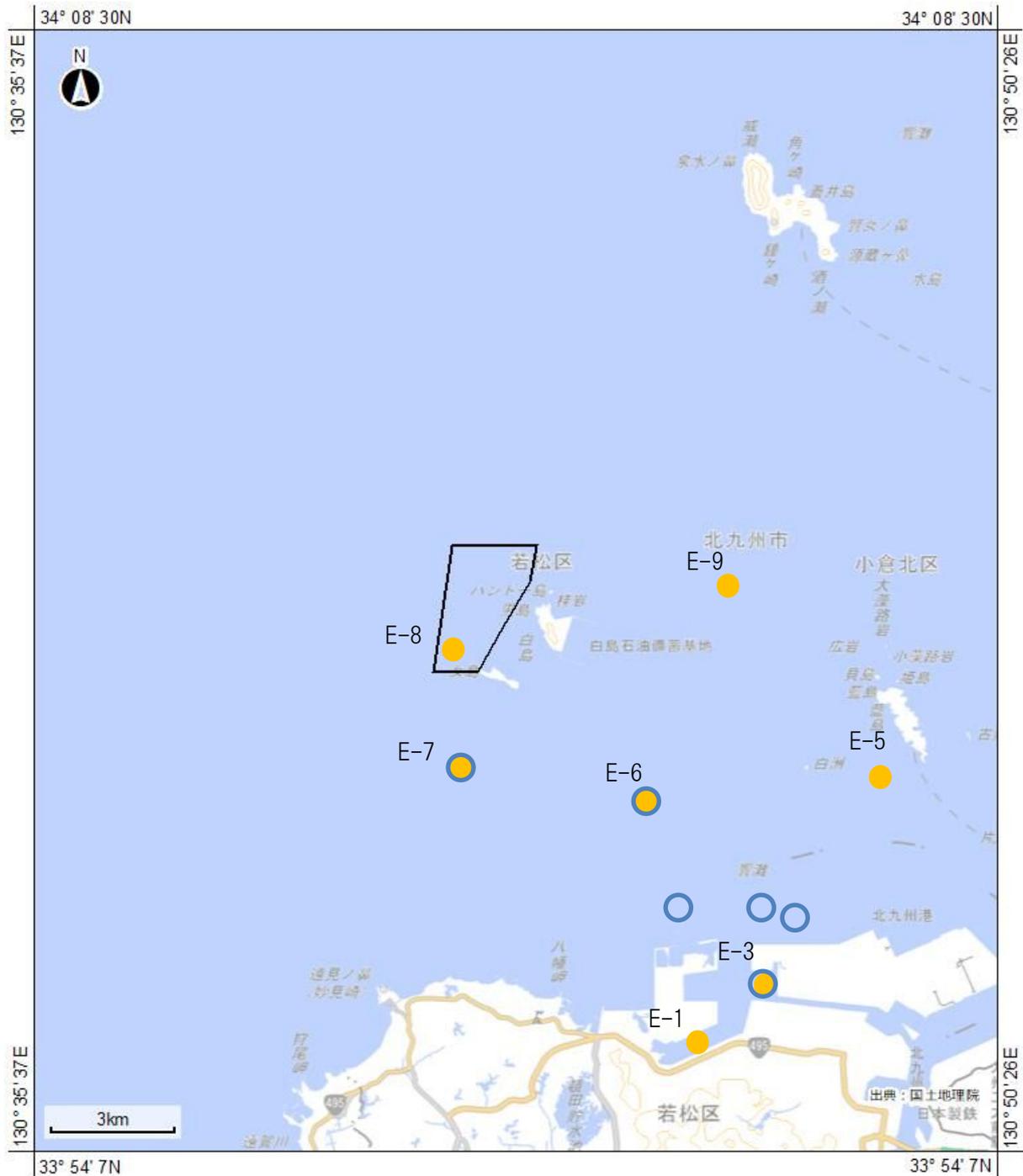
② 底生生物の状況

事業実施想定区域周辺については、平成 25 年 5 月、7 月、10 月及び 12 月に北九州市環境局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-34 に、調査結果を表 3.1-47～表 3.1-49 に示す。

事業実施想定区域内の地点 (E-8) における季節ごとの出現種数については 15～58 種で夏季に多く、冬季に少ない。個体数については 141 個体/m²～656 個体/m² で夏季に多く、冬季に少ない。出現種については、いずれの季節も環形動物門の割合が高くなっている。

また、北九州市の調査によれば白島の南側の海域において、重要種であるナメクジウオ²が確認されている (図 3.1-34 参照)。ナメクジウオは、浅海の砂底に生息し、潮通しがよく、泥分をほとんど含まない粗い砂でできた海底を好むとされている。

² ナメクジウオ (ヒガシナメクジウオ) は環境省版海洋生物レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、水産庁：危急種、福岡県レッドデータブック：準絶滅危惧に指定されている。



凡例

● 底生生物調査地点（北九州市環境局）

□ 事業実施想定区域

○ ナメクジウオの確認査地点（北九州市）

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成 26 年 3 月、北九州市環境局）、
 「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成 27 年 8 月）

図 3.1-34 底生生物の調査地点

表 3.1-47 底生生物の調査結果 (1/3)

【春季】		調査時期：平成25年5月18～19日			
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	54	58	36	41	
個体数 (個体/m ²)	9,539	6,412	810	865	
湿重量 (g/m ²)	292.23	233.25	8.75	21.43	
個体数	環形動物門	2,417 (25.3%)	2,462 (38.4%)	447 (55.2%)	210 (24.3%)
	軟体動物門	5,988 (62.8%)	3,421 (53.4%)	14 (1.7%)	74 (8.6%)
	節足動物門	1,026 (10.8%)	368 (5.7%)	76 (9.4%)	299 (34.6%)
	その他動物門	108 (1.1%)	161 (2.5%)	273 (33.7%)	282 (32.6%)
	合計	9,539 (100.0%)	6,412 (100.0%)	810 (100.0%)	865 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ホトキスガイ 軟体動物 (61.3%)	ホトキスガイ 軟体動物 (49.1%)	コマツブウニ 棘皮動物 (23.1%)	コマツブウニ 棘皮動物 (24.0%)
	優占2位	ウミタルモトキ科 節足動物 (8.3%)	ニセタマクシアソコガイ 環形動物 (12.1%)	Lumbrinerides sp. 環形動物 (14.0%)	エラナシヒオ 環形動物 (10.9%)
	優占3位	Mediomastus sp. 環形動物 (3.0%)	カタマカリギボシイソメ 環形動物 (6.3%)	Euchone sp. 環形動物 (11.6%)	Pseudoproto sp. 節足動物 (8.5%)
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	51	47	85		
個体数 (個体/m ²)	1,114	543	1,543		
湿重量 (g/m ²)	9.71	11.54	25.01		
個体数	環形動物門	249 (22.4%)	298 (54.9%)	779 (50.5%)	
	軟体動物門	115 (10.3%)	28 (5.2%)	208 (13.5%)	
	節足動物門	529 (47.5%)	156 (28.7%)	448 (29.0%)	
	その他動物門	221 (19.8%)	61 (11.2%)	108 (7.0%)	
	合計	1,114 (100.0%)	543 (100.0%)	1,543 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	テナカウレカラ 節足動物 (36.1%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (17.5%)	マコチマキコガイ 環形動物 (8.3%)	
	優占2位	紐形動物門 紐形動物 (6.0%)	Asabellides sp. 環形動物 (6.3%)	テナカウレカラ 節足動物 (6.1%)	
	優占3位	イギンチャク目 刺胞動物 (5.4%)	Chone sp. 環形動物 (5.0%)	コオニヒオ 環形動物 (4.3%)	
	調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6
種類数	42	28	90	38	
個体数 (個体/m ²)	4,653	6,135	4,360	701	
湿重量 (g/m ²)	508.75	684.96	37.69	17.29	
個体数	環形動物門	1,149 (24.7%)	2,861 (46.6%)	995 (22.8%)	316 (45.1%)
	軟体動物門	3,235 (69.5%)	3,213 (52.4%)	794 (18.2%)	228 (32.5%)
	節足動物門	215 (4.6%)	34 (0.6%)	2,329 (53.4%)	35 (5.0%)
	その他動物門	54 (1.2%)	27 (0.4%)	242 (5.6%)	122 (17.4%)
	合計	4,653 (100.0%)	6,135 (100.0%)	4,360 (100.0%)	701 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ホトキスガイ 軟体動物 (67.7%)	ホトキスガイ 軟体動物 (51.8%)	ヤサシテウレカラ 節足動物 (30.0%)	エラナシヒオ 環形動物 (23.1%)
	優占2位	Tharyx sp. 環形動物 (6.3%)	ミスヒキコガイ 環形動物 (15.4%)	シズクガイ 軟体動物 (11.5%)	トリガイ 軟体動物 (17.3%)
	優占3位	ウミタルモトキ科 節足動物 (3.2%)	ニセタマクシアソコガイ 環形動物 (14.5%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (7.8%)	紐形動物門 紐形動物 (6.7%)
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Lumbrinerides sp. 環形動物 (44.6%)	Amphicteis sp. 環形動物 (8.2%)	紐形動物門 紐形動物 (8.6%)	
	優占2位	ササナシイ 軟体動物 (4.6%)	ウミタルモトキ科 節足動物 (6.2%)	Lumbrineris sp. 環形動物 (7.1%)	
	優占3位	Amphitrite sp. 環形動物 (4.6%)	Aglaophamus sp. 環形動物 (4.1%)	コカイリ科 環形動物 (7.1%)	
	調査地点	E-7	E-8	E-9	
種類数	26	58	36		
個体数 (個体/m ²)	436	656	473		
湿重量 (g/m ²)	7.08	12.34	7.95		
個体数	環形動物門	329 (75.5%)	427 (65.1%)	323 (68.3%)	
	軟体動物門	74 (17.0%)	34 (5.2%)	20 (4.2%)	
	節足動物門	7 (1.6%)	155 (23.6%)	62 (13.1%)	
	その他動物門	26 (6.0%)	40 (6.1%)	68 (14.4%)	
	合計	436 (100.0%)	656 (100.0%)	473 (100.0%)</	

表 3.1-48 底生生物の調査結果 (2/3)

【秋季】		調査時期：平成25年10月18日			
調査地点		E-1	E-3	E-5	E-6
種類数		18	30	21	17
個体数 (個体/m ²)		341	492	244	176
湿重量 (g/m ²)		36.40	18.49	30.21	70.02
個体数	環形動物門	220 (64.5%)	397 (80.7%)	102 (41.8%)	128 (72.7%)
	軟体動物門	80 (23.5%)	7 (1.4%)	7 (2.9%)	7 (4.0%)
	節足動物門	14 (4.1%)	54 (11.0%)	68 (27.9%)	14 (8.0%)
	その他動物門	27 (7.9%)	34 (6.9%)	67 (27.5%)	27 (15.3%)
	合計	341 (100.0%)	492 (100.0%)	244 (100.0%)	176 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ホトキスガイ 環形動物 (23.5%)	<i>Mediomastus</i> sp. 環形動物 (20.5%)	メクラガニ 節足動物 (13.9%)	<i>Scoloplos</i> sp. 環形動物 (15.4%)
	優占2位	<i>Mediomastus</i> sp. 環形動物 (15.7%)	カクマカニ 環形動物 (17.8%)	<i>Notomastus</i> sp. 環形動物 (13.9%)	<i>Magelona</i> sp. 環形動物 (11.5%)
	優占3位	チロリ 環形動物 (9.8%)	メクラガニ 節足動物 (5.5%)	<i>Diplocirrus</i> sp. 環形動物 (8.3%)	リ初ス科 紐形動物 (7.7%)
		モロコガイ 環形動物 (9.8%)	<i>Marphysa</i> sp. 環形動物 (5.5%)	<i>Amphipholis</i> sp. 棘皮動物 (8.3%)	<i>Litocorsa</i> sp. 環形動物 (7.7%)
				ゲミトキ科 棘皮動物 (8.3%)	<i>Langerhansia</i> sp. 環形動物 (7.7%)
					<i>Clymenella</i> sp. 環形動物 (7.7%)
調査地点		E-7	E-8	E-9	
種類数		17	27	46	
個体数 (個体/m ²)		210	311	489	
湿重量 (g/m ²)		15.87	6.15	20.48	
個体数	環形動物門	135 (64.3%)	195 (62.7%)	299 (61.1%)	
	軟体動物門	40 (19.0%)	14 (4.5%)	34 (7.0%)	
	節足動物門	0 (0.0%)	61 (19.6%)	115 (23.5%)	
	その他動物門	35 (16.7%)	41 (13.2%)	41 (8.4%)	
	合計	210 (100.0%)	311 (100.0%)	489 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	<i>Lumbrinerides</i> sp. 環形動物 (22.6%)	ニカイロリ科 環形動物 (17.4%)	<i>Lumbrineris</i> sp. 環形動物 (6.9%)	
	優占2位	<i>Litocorsa</i> sp. 環形動物 (9.7%)	<i>Aglaophamus</i> sp. 環形動物 (10.9%)	カキアソガイ 環形動物 (5.6%)	
	優占3位	ニカイロリ科 環形動物 (9.7%)	<i>Magelona</i> sp. 環形動物 (6.5%)	<i>Amphicteis</i> sp. 環形動物 (5.6%)	
		ウミカメシ科 環形動物 (9.7%)	ナカサキハカニ 節足動物 (6.5%)	スナモグリ科 節足動物 (5.6%)	

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

表 3.1-49 底生生物の調査結果 (3/3)

【冬季】		調査時期：平成25年12月4日			
調査地点		E-1	E-3	E-5	E-6
種類数		15	17	14	25
個体数 (個体/m ²)		203	196	116	218
湿重量 (g/m ²)		62.49	3.67	13.00	26.29
個体数	環形動物門	168 (82.8%)	155 (79.1%)	20 (17.2%)	130 (59.6%)
	軟体動物門	7 (3.4%)	0 (0.0%)	41 (35.3%)	21 (9.6%)
	節足動物門	14 (6.9%)	34 (17.3%)	20 (17.2%)	33 (15.1%)
	その他動物門	14 (6.9%)	7 (3.6%)	35 (30.2%)	34 (15.6%)
	合計	203 (100.0%)	196 (100.0%)	116 (100.0%)	218 (100.0%)
主な出現種	優占1位	<i>Mediomastus</i> sp. 環形動物 (23.2%)	カタマカ ^リ キ ^ホ シイ ^ノ ム 環形動物 (16.8%)	<i>Chaetozone</i> sp. 環形動物 (11.2%)	アンホ ^ン キ ^ホ シイ ^ノ ム 環形動物 (9.2%)
	優占2位	モロコ ^ノ カイ 環形動物 (13.3%)	<i>Mediomastus</i> sp. 環形動物 (10.2%)	<i>Maetra</i> sp. 軟体動物 (11.2%)	紐形動物門 (6.0%)
	優占3位	チロリ 環形動物 (9.9%)	マクス ^ビ オ 環形動物 (10.2%)	ウミホ ^ト キ科 節足動物 (11.2%)	<i>Phyllodoce</i> sp. 環形動物 (6.0%)
		マクス ^ビ オ 環形動物 (9.9%)	ト ^ノ ロコ ^エ ビ ^ノ 節足動物 (10.2%)		<i>Aricidea</i> sp. 環形動物 (6.0%)
					ウミホ ^ト ル科 節足動物 (6.0%)
					ナカ ^ノ キ ^ハ ガ ^ニ 節足動物 (6.0%)
調査地点		E-7	E-8	E-9	
種類数		23	15	36	
個体数 (個体/m ²)		316	141	438	
湿重量 (g/m ²)		6.73	15.80	2.03	
個体数	環形動物門	207 (65.5%)	87 (61.7%)	345 (78.8%)	
	軟体動物門	7 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	節足動物門	34 (10.8%)	27 (19.1%)	46 (10.5%)	
	その他動物門	68 (21.5%)	27 (19.1%)	47 (10.7%)	
	合計	316 (100.0%)	141 (100.0%)	438 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	ウミホ ^ト キ科 環形動物 (14.9%)	<i>Lumbrinerides</i> sp. 環形動物 (9.2%)	ニカイ ^リ 科 環形動物 (9.1%)	
	優占2位	<i>Lumbrinerides</i> sp. 環形動物 (12.7%)	トゲ ^ツ バ ^ト カリ 節足動物 (9.2%)	<i>Aricidea</i> sp. 環形動物 (9.1%)	
	優占3位	<i>Sigambra</i> sp. 環形動物 (10.4%)	ヤト ^ノ カ ^ノ イ ^キ ン ^チ ヤク 刺胞動物 (9.2%)	<i>Lumbrineris</i> sp. 環形動物 (6.2%)	
			オノ ^ノ チロリ 環形動物 (9.2%)		
			<i>Lumbrineris</i> sp. 環形動物 (9.2%)		
			<i>Magelona</i> sp. 環形動物 (9.2%)		

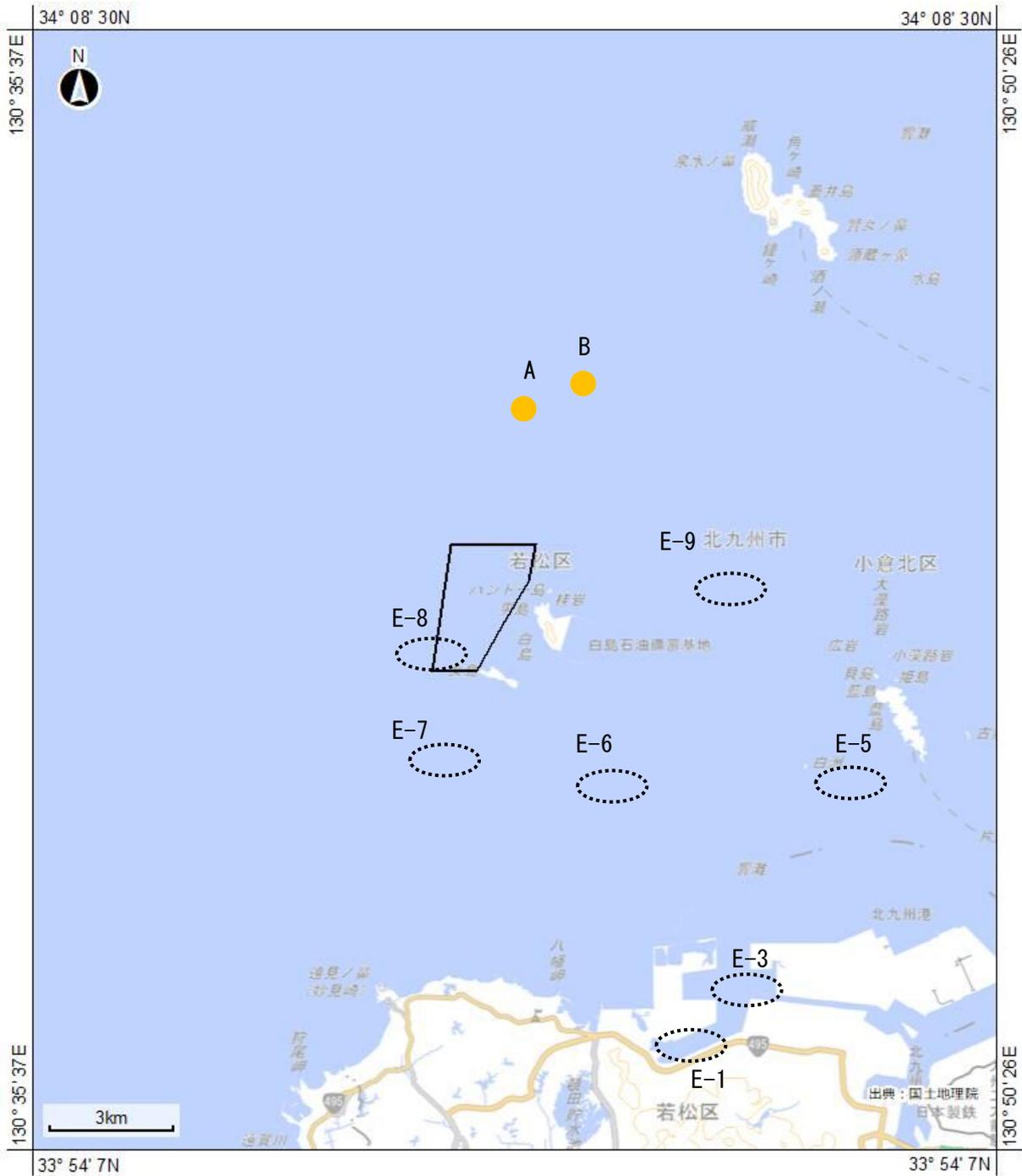
出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

③ 魚類等の遊泳動物の状況

事業実施想定区域周辺については、平成 27 年 8 月に NEDO、平成 25 年 5 月、6 月、7 月、10 月、12 月及び平成 26 年 1 月に北九州市環境局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-35 に、調査結果を表 3.1-50～表 3.1-52 に示す。

事業実施想定区域内の地点（E-8）における季節ごとの出現種数については 20～61 種で秋季に多く、冬季に少ない。個体数については 187 個体～366 個体で夏季に多く、冬季に少ない。主な出現種については、春季はマダイ、夏季はチカメダルマガレイ、秋季はゲンコ、冬季はウイジンドウイカとなっている。

なお、NEDO の調査では、漁獲された魚種の中に重要な種として、カサゴ亜目のカナガシラ（絶滅危惧種、水産庁）が確認されている。



凡例

- 魚類調査地点 (NEDO)
- 事業実施想定区域
- 魚類調査地点 (北九州市環境局)

出典：「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年 12 月)、「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成 26 年 3 月、北九州市環境局)

図 3.1-35 魚類等の遊泳動物の調査地点

表 3.1-50 魚類等の遊泳動物調査結果 (1/3)

季節		夏 季	
調査日		平成27年8月5日、6日	
地点		A	B
種類数		19	21
個体数		156	99
湿重量		4,580	3,878
個体数	軟体動物	5 (0.3%)	2 (1.0%)
	節足動物	7 (3.8%)	1 (6.0%)
	棘皮動物	1 (2.6%)	1 (4.9%)
	脊索動物	143 (93.4%)	95 (88.1%)
	合計	156 (100.0%)	99 (100.0%)
主な出現種		オキヒイラギ [*] (41.2%)	トカゲ [*] エソ (25.9%)
		トカゲ [*] エソ (19.0%)	オキヒイラギ [*] (16.8%)
		ヒメジ [*] (10.0%)	マアジ [*] (11.2%)

出典：「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年 12 月)

表 3.1-51 魚類等の遊泳動物調査結果 (2/3)

【春季】		調査方法：底曳網、調査時期：平成25年5月31日			調査方法：刺網、調査時期：平成25年5月31日～6月1日			
調査地点	E-6	E-7	E-8	E-1	E-3	E-5	E-9	
種類数	54	39	55	3	10	8	7	
個体数 (個体)	393	207	327	21	13	15	11	
湿重量 (g)	9,755	9,993	17,567	2,085	2,920	5,810	1,722	
個体数	軟体動物	11 (2.8%)	6 (2.9%)	10 (3.1%)	- (0.0%)	3 (23.1%)	- (0.0%)	1 (9.1%)
	節足動物	116 (29.5%)	26 (12.6%)	28 (8.6%)	- (0.0%)	3 (23.1%)	3 (20.0%)	2 (18.2%)
	棘皮動物	14 (3.6%)	27 (13.0%)	17 (5.2%)	20 (95.2%)	4 (30.8%)	6 (40.0%)	1 (9.1%)
	脊索動物	252 (64.1%)	148 (71.5%)	272 (83.2%)	1 (4.8%)	3 (23.1%)	6 (40.0%)	7 (63.6%)
	合計	393 (100.0%)	207 (100.0%)	327 (100.0%)	21 (100.0%)	13 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)
主な出現種	優占1位	キシエビ (14.5%)	カナガシラ (26.6%)	マダイ (13.8%)	キヒトデ (90.5%)	コウイカ (15.4%)	ヤツデスナヒトデ (33.3%)	カワハギ (45.5%)
	優占2位	カナガシラ (9.9%)	チダイ (10.1%)	オキヒイラギ (8.6%)	モミジガイ (4.8%)	フジナマコ (15.4%)	ホシザメ (20.0%)	マアジ (9.1%)
	優占3位	マダイ (9.9%)	ヤツデスナヒトデ (8.2%)	チダイ (7.0%)	ヒラメ (4.8%)	アカメバル (15.4%)	ドロイシガニ (13.3%)	マルツノガニ (9.1%) コモンカスベ (9.1%) アカボシヤドカリ (9.1%) コウイカ (9.1%) ミットグホウキボシ (9.1%)

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成 26 年 3 月、北九州市環境局)

表 3.1-52 魚類等の遊泳動物調査結果 (3/3)

【夏季】		調査方法：底曳網、調査時期：平成25年7月24～27日			調査方法：刺網、調査時期：平成25年7月26日			
調査地点	E-6	E-7	E-8	E-1	E-3	E-5	E-9	
種類数	53	53	54	5	8	3	1	
個体数 (個体)	571	507	366	20	12	8	2	
湿重量 (g)	28,565	12,993	11,891	2,139	895	1,091	37	
個体数	軟体動物	10 (1.8%)	13 (2.6%)	33 (9.0%)	2 (10.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	節足動物	34 (6.0%)	28 (5.5%)	59 (16.1%)	5 (25.0%)	5 (41.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	棘皮動物	71 (12.4%)	23 (4.5%)	17 (4.6%)	12 (60.0%)	4 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
	脊椎動物	456 (79.9%)	443 (87.4%)	257 (70.2%)	1 (5.0%)	2 (16.7%)	8 (100.0%)	0 (0.0%)
	合計	571 (100.0%)	507 (100.0%)	366 (100.0%)	20 (100.0%)	12 (100.0%)	8 (100.0%)	2 (100.0%)
主な出現種	優占1位	マダイ (30.5%)	マダイ (48.1%)	チカメダルマガレイ (19.7%)	キヒトデ (55.0%)	キヒトデ (33.3%)	カワハギ (75.0%)	キヒトデ (100.0%)
	優占2位	ヤツデスナヒトデ (10.5%)	ヤリスメリ (14.0%)	テッポウイシモチ (8.7%)	ガザミ (25.0%)	イシガニ (16.7%)	シロギス (12.5%)	
	優占3位	チカメダルマガレイ (8.9%)	チカメダルマガレイ (4.5%)	サルエビ (8.7%)	カミナリイカ (10.0%)	ミヤコウミウシ (8.3%)	タマガンソウビラメ (12.5%)	
						キメンガニ (8.3%)		
						ワタクズガニ (8.3%)		

【秋季】		調査方法：底曳網、調査時期：平成25年10月30日			調査方法：刺網、調査時期：平成25年10月29～30日			
調査地点	E-6	E-7	E-8	E-1	E-3	E-5	E-9	
種類数	39	49	61	2	4	11	6	
個体数 (個体)	219	247	282	5	9	18	9	
湿重量 (g)	10,913	8,786	27,771	240	5,822	4,365	1,733	
個体数	軟体動物	13 (5.9%)	10 (4.0%)	19 (6.7%)	1 (20.0%)	1 (11.1%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)
	節足動物	58 (26.5%)	39 (15.8%)	57 (20.2%)	4 (80.0%)	6 (66.7%)	3 (16.7%)	1 (11.1%)
	棘皮動物	30 (13.7%)	23 (9.3%)	8 (2.8%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	6 (33.3%)	0 (0.0%)
	脊椎動物	118 (53.9%)	175 (70.9%)	198 (70.2%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	7 (38.9%)	8 (88.9%)
	合計	219 (100.0%)	247 (100.0%)	282 (100.0%)	5 (100.0%)	9 (100.0%)	18 (100.0%)	9 (100.0%)
主な出現種	優占1位	マダイ (14.6%)	チカメダルマガレイ (10.9%)	ゲンコ (10.6%)	タイワンガザミ (80.0%)	タイワンガザミ (66.7%)	ヤツデスナヒトデ (27.8%)	カワハギ (44.4%)
	優占2位	チカメダルマガレイ (14.2%)	ヒメジ (10.5%)	トカゲゴチ (7.8%)	ナガニシ (20.0%)	コウイカ (11.1%)	アカボシヤドカリ (16.7%)	ヒラメ (11.1%)
	優占3位	ヤツデスナヒトデ (12.8%)	マダイ (9.3%)	テッポウイシモチ (6.4%)		サンショウウニ (11.1%)	ヒゲソリダイ (11.1%)	アカボシヤドカリ (11.1%)
						シロザメ (11.1%)		ワニエソ (11.1%)
								カサゴ (11.1%)

【冬季】		調査方法：底曳網、調査時期：平成26年1月7日			調査方法：刺網、調査時期：平成25年12月16～17日			
調査地点	E-6	E-7	E-8	E-1	E-3	E-5	E-9	
種類数	25	25	20	4	2	6	5	
個体数 (個体)	189	172	187	6	3	9	6	
湿重量 (g)	6,768	4,821	2,147	3,462	415	651	2,074	
個体数	軟体動物	39 (20.6%)	82 (47.7%)	109 (58.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	節足動物	26 (13.8%)	16 (9.3%)	9 (4.8%)	2 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (33.3%)	1 (16.7%)
	棘皮動物	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	4 (44.4%)	1 (16.7%)
	脊椎動物	124 (65.6%)	74 (43.0%)	69 (36.9%)	2 (33.3%)	1 (33.3%)	2 (22.2%)	4 (66.7%)
	合計	189 (100.0%)	172 (100.0%)	187 (100.0%)	6 (100.0%)	3 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)
主な出現種	優占1位	コモンフグ (17.5%)	ウイジンドウイカ (34.3%)	ウイジンドウイカ (42.2%)	モミジガイ (33.3%)	ベニイシガニ (66.7%)	サンショウウニ (33.3%)	クエ (33.3%)
	優占2位	ウイジンドウイカ (13.8%)	チカメダルマガレイ (12.2%)	ゴンズイ (17.1%)	クサウオ (33.3%)	アカエイ (33.3%)	ツノガニ (22.2%)	ベニイシガニ (16.7%)
	優占3位	チカメダルマガレイ (13.2%)	ジンドウイカ属 (10.5%)	ジンドウイカ属 (11.2%)	タイワンガザミ (16.7%)		アカボシヤドカリ (11.1%)	フジナマコ (16.7%)
		ショウサイフグ (13.2%)			シャコ (16.7%)		サンショウウニ科 (11.1%)	タカノハダイ (16.7%)
							アカエイ (11.1%)	カワハギ (16.7%)

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成26年3月、北九州市環境局)

福岡県のレッドリストに記載された魚類のうち、北九州市エリアで確認される魚類の稀少種を表 3.1-53 に示す。海域性の魚類としては、海と河口を回遊する魚類として、サケ、シロウオが見られる。

なお、サケについては、遠賀川水系で積極的な種苗放流がなされているが、安定した再生産は確認されておらず、カテゴリーは野生絶滅となっている。

表 3.1-53 福岡県のレッドリスト（魚類）

No.	和名・学名	科 目	カテゴリー
1	アオギス	スズキ目	絶滅危惧 I B類
2	アブラボテ	コイ目	準絶滅危惧
3	アユ	サケ目	準絶滅危惧
4	イシドジョウ	コイ目	絶滅危惧 I A類
5	イドミミズハゼ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
6	ウキゴリ	スズキ目	情報不足
7	エドハゼ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
8	オヤニラミ	スズキ目	準絶滅危惧
9	オンガスジシマドジョウ	コイ目	絶滅危惧 I B類
10	カゼトゲタナゴ	コイ目	絶滅危惧 I B類
11	カネヒラ	コイ目	準絶滅危惧
12	カワアナゴ	スズキ目	準絶滅危惧
13	ギギ	ナマズ目	準絶滅危惧
14	キセルハゼ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
15	クボハゼ	スズキ目	絶滅危惧 I A類
16	サケ	サケ目	野生絶滅
17	ショウキハゼ	スズキ目	準絶滅危惧
18	シラヌイハゼ	スズキ目	準絶滅危惧
19	シロウオ	スズキ目	準絶滅危惧
20	シロチチブ	スズキ目	準絶滅危惧
21	スナヤツメ南方種	ヤツメウナギ目	絶滅危惧 I B類
22	ゼゼラ	コイ目	準絶滅危惧
23	タビラクチ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
24	チクゼンハゼ	スズキ目	絶滅危惧 I B類
25	チワラスボ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
26	ツチフキ	コイ目	準絶滅危惧
27	トビハゼ	スズキ目	絶滅危惧 II 類
28	ドジョウ	コイ目	絶滅危惧 II 類
29	ニホンウナギ	ウナギ目	絶滅危惧 I B類
30	ニッポンバラタナゴ	コイ目	絶滅危惧 I B類
31	ヒモハゼ	スズキ目	準絶滅危惧
32	メダカ（ミナミメダカ）	ダツ目	準絶滅危惧
33	ヌマムツ	コイ目	準絶滅危惧
34	ヤマトシマドジョウ	コイ目	準絶滅危惧
35	ヤリタナゴ	コイ目	絶滅危惧 II 類

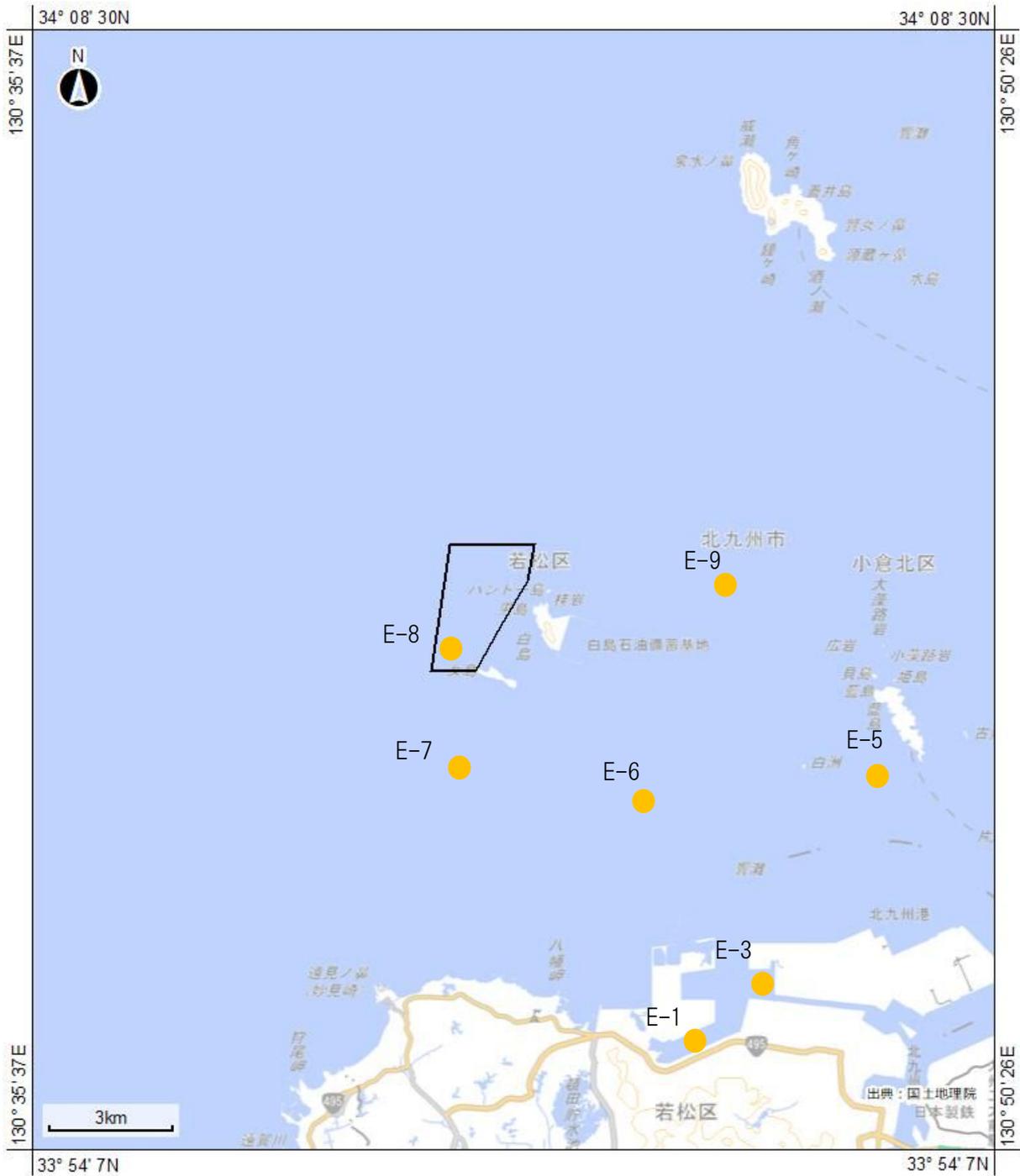
出典：福岡県レッドデータブック 2014

④ 魚卵・稚仔の状況

事業実施想定区域周辺の魚卵・稚仔については、平成25年5月、7月、10月及び12月に北九州市環境局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-36 に、魚卵の調査結果を表 3.1-54 に、稚仔の調査結果を表 3.1-55 にそれぞれ示す。

魚卵については、事業実施想定区域内の地点（E-8）における季節ごとの出現種数は5～9種であり、春季に多く、冬季に少ない。個体数については52～276個体で、春季に多くなっている。主な出現種は、各季を通じて不明卵が多い。

稚仔については、事業実施想定区域内の地点（E-8）における季節ごとの出現種数は1～8種であり、春季に多く、冬季に少ない。個体数については、2～32個体で春季及び夏季に多くなっている。主な出現種は、春季はコノシロ、メジナ属、夏季はヒメジ科、秋季はシイラ、スズメダイ科、冬季はベラ科となっている。



凡例

● 魚卵・稚子の調査地点

□ 事業実施想定区域

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成 26 年 3 月、北九州市環境局）

図 3.1-36 魚卵・稚子の調査結果

表 3.1-54 魚卵の調査結果

【春季】

調査時期：平成25年5月18日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	6	5	7	9	8	9	9	
個体数 (個体)	37	203	166	1,608	176	276	676	
主な出現種	優占1位	ネスッポ科 (40.5%)	単脂球形卵-3 (51.7%)	カクチイソ (48.2%)	コシロ (62.7%)	コシロ (26.1%)	単脂球形卵-3 (33.7%)	コシロ (59.2%)
	優占2位	単脂球形卵-1 (32.4%)	ネスッポ科 (35.5%)	単脂球形卵-3 (40.4%)	単脂球形卵-4 (14.4%)	カクチイソ (21.6%)	単脂球形卵-1 (17.8%)	カクチイソ (13.2%)
	優占3位	カクチイソ (8.1%) 単脂球形卵-2 (8.1%)	単脂球形卵-4 (6.4%)	ネスッポ科 (4.2%)	カクチイソ (13.9%)	単脂球形卵-3 (20.5%)	単脂球形卵-4 (11.6%)	単脂球形卵-4 (13.2%)

- 注1) 単脂球形卵-1 は卵径 0.65-0.73mm、油球径 0.13-0.16mm。
 注2) 単脂球形卵-2 は卵径 0.75-0.80mm、油球径 0.15-0.20mm。
 注3) 単脂球形卵-3 は卵径 0.80-0.90mm、油球径 0.23-0.25mm。
 注4) 単脂球形卵-4 は卵径 1.03-1.30mm、油球径 0.15-0.18mm。

【夏季】

調査時期：平成25年7月23日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	1	1	11	8	7	6	13	
個体数 (個体)	554	253	1,890	105	81	52	207	
主な出現種	優占1位	単脂球形卵-1 (100.0%)	単脂球形卵-1 (100.0%)	無脂球形卵-5 (29.3%)	単脂球形卵-2 (64.8%)	単脂球形卵-1 (82.7%)	単脂球形卵-1 (53.8%)	単脂球形卵-2 (30.0%)
	優占2位	-	-	ペラ科 (27.0%)	単脂球形卵-1 (24.8%)	単脂球形卵-2 (7.4%)	単脂球形卵-2 (34.6%)	単脂球形卵-1 (24.6%)
	優占3位	-	-	単脂球形卵-1 (18.4%)	ウシソク科 (3.8%)	ウシソク科 (4.9%)	カクチイソ (5.8%)	多脂球形卵-7 (14.0%)

- 注1) 単脂球形卵-1 は卵径 0.55-0.65mm、油球径 0.11-0.15mm。
 注2) 単脂球形卵-2 は卵径 0.48-0.75mm、油球径 0.13-0.18mm。
 注3) 単脂球形卵-5 は卵径 1.15-1.25mm、油球径 0.38-0.40mm。

【秋季】

調査時期：平成25年10月18日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	0	2	3	4	6	8	10	
個体数 (個体)	0	17	10	31	21	53	389	
主な出現種	優占1位	単脂球形卵-1 (82.4%)	無脂球形卵-2 (60.0%)	単脂球形卵-2 (74.2%)	単脂球形卵-2 (47.6%)	単脂球形卵-2 (41.5%)	単脂球形卵-1 (70.4%)	
	優占2位	-	ネスッポ科 (17.6%)	単脂球形卵-1 (20.0%)	単脂球形卵-1 (12.9%)	タチウオ (14.3%)	ウシソク科 (32.1%)	単脂球形卵-2 (20.3%)
	優占3位	-	ウシソク科 (20.0%)	ウシソク科 (6.5%)	ウシソク科 (6.5%)	ウナギ目 (9.5%) ウシソク科 (9.5%) ウシソク科 (9.5%) 単脂球形卵-1 (9.5%)	エソ科 (5.7%) ウニキス科 (5.7%)	タチウオ (2.1%) ウシソク科 (2.1%)

- 注1) 単脂球形卵-1 は卵径 0.70-0.80mm、油球径 0.18-0.20mm。
 注2) 単脂球形卵-2 は卵径 0.83-0.90mm、油球径 0.23-0.25mm。

【冬季】

調査時期：平成25年12月5日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9
種類数	0	1	1	1	4	5	5
個体数 (個体)	0	61	27	77	45	97	40
主な出現種	優占1位	単脂球形卵-1 (100.0%)	単脂球形卵-1 (100.0%)	単脂球形卵-1 (100.0%)	単脂球形卵-1 (64.4%)	単脂球形卵-1 (61.9%)	単脂球形卵-1 (55.0%)
	優占2位	-	-	-	ホリホウ科 (22.2%)	ホリホウ科 (12.4%)	ホリホウ科 (22.5%)
	優占3位	-	-	-	メイカレイ属 (6.7%) 単脂球形卵-3 (6.7%)	単脂球形卵-3 (12.4%)	メイカレイ属 (17.5%)

- 注1) 単脂球形卵-1 は卵径 0.75-0.88mm、油球径 0.13-0.15mm。
 注2) 単脂球形卵-3 は卵径 1.15-1.23mm、油球径 0.25-0.28mm。

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成26年3月、北九州市環境局)

表 3.1-55 稚仔の調査結果

【春季】

調査時期：平成25年5月18日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	8	1	2	5	0	8	8	
個体数 (個体)	34	9	13	20	0	26	45	
主な出現種	優占1位	ハゼ科 (64.7%)	ハゼ科 (100.0%)	ハゼ科 (84.6%)	コノシロ (80.0%)	-	コノシロ (34.6%)	コノシロ (66.7%)
	優占2位	フグ科 (17.6%)	-	イソギンボ科 (15.4%)	サヨ科 (10.0%)	-	メジナ属 (30.8%)	ハゼ科 (15.6%)
	優占3位	コノシロ (5.9%) ヘダレイ亜科 (5.9%) フサカサコ科 (5.9%)	-	-	タイ科 (10.0%)	-	タイ科 (11.5%)	カタチイワシ (4.4%) サヨ科 (4.4%) メジナ属 (4.4%) 破損固体 (4.4%)

【夏季】

調査時期：平成25年7月23日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	3	2	6	9	5	6	4	
個体数 (個体)	10	11	76	34	18	32	46	
主な出現種	優占1位	ハゼ科 (60.0%)	ハゼ科 (81.8%)	キス科 (23.7%)	ヒメジ科 (47.1%)	ヒメジ科 (61.1%)	ヒメジ科 (53.1%)	ふ化仔魚 (82.6%)
	優占2位	キス科 (20.0%)	カワハキ (18.2%)	シマイサキ科 (23.7%)	アジ科 (11.8%)	テンジクダ科 (22.2%)	シマイサキ科 (12.5%)	ヒメジ科 (8.7%)
	優占3位	フグ目 (20.0%)	-	ハゼ科 (23.7%)	アゴ科 (11.8%)	キス科 (5.6%) アジ科 (5.6%) ウシシタ科 (5.6%)	スズメダイ科 (12.5%)	トビウオ科 (4.3%) キス科 (4.3%)

【秋季】

調査時期：平成25年10月18日

調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	1	3	4	5	13	3	3	
個体数 (個体)	2	13	9	22	85	6	6	
主な出現種	優占1位	イソギンボ科 (100.0%)	イソギンボ科 (69.2%)	イソギンボ科 (33.3%)	ニシギンボ (27.3%)	スズメダイ科 (20.0%)	シラ (33.3%)	カマス属 (33.3%)
	優占2位	-	タツノオトシコ属 (15.4%)	タツノオトシコ属 (22.2%)	イソギンボ科 (27.3%)	不明 (15.3%)	スズメダイ科 (33.3%)	ヒメジ科 (33.3%)
	優占3位	-	テンジクダ科 (15.4%)	ニシギンボ (22.2%) アミハキ (22.2%)	ウハウオ科 (27.3%)	イソギンボ科 (14.1%)	不明 (33.3%)	スズメダイ科 (33.3%)

【冬季】

調査時期：平成25年12月5日

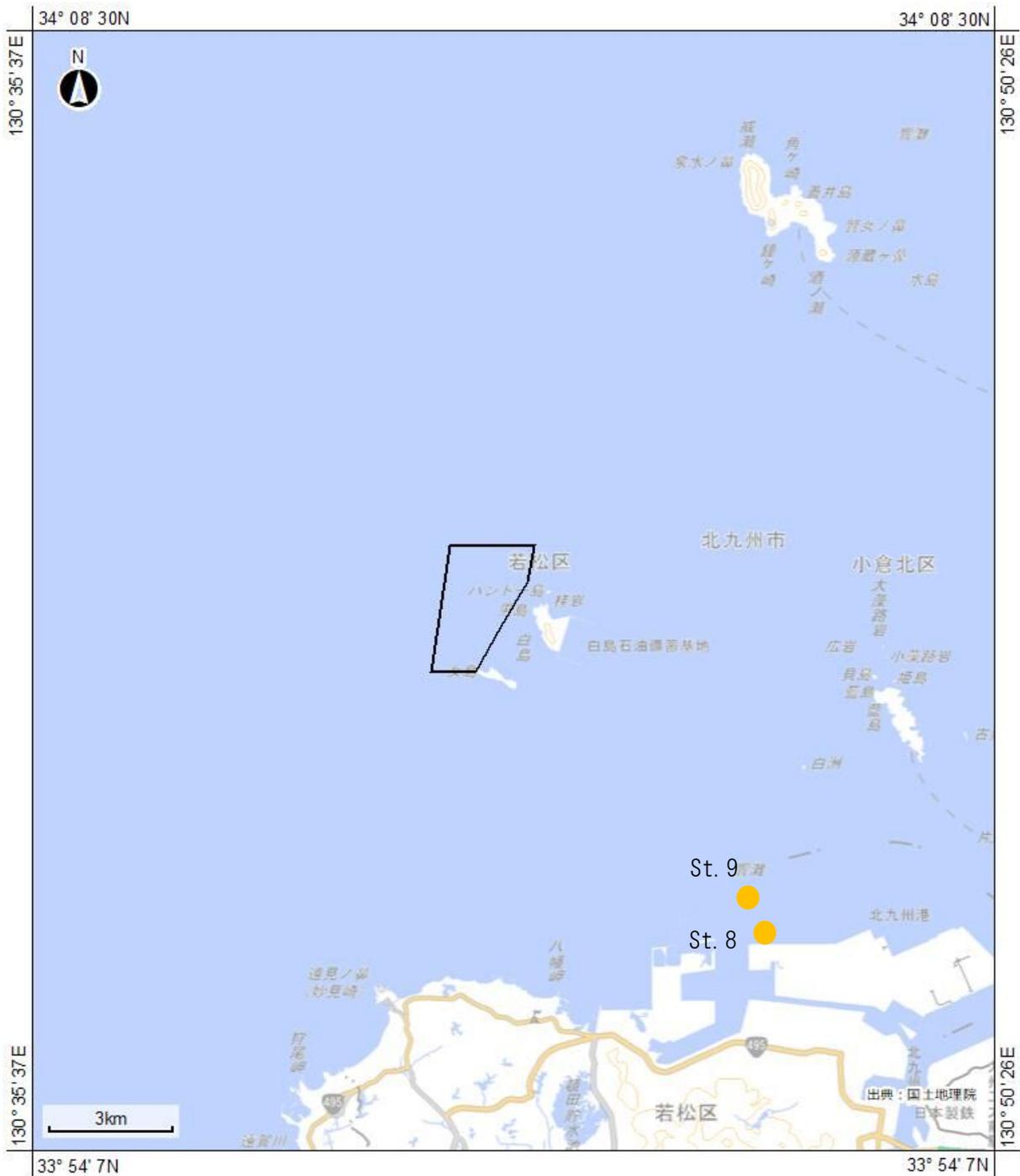
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	
種類数	0	0	0	1	3	1	0	
個体数 (個体)	0	0	0	2	8	2	0	
主な出現種	優占1位	-	-	-	ヤハウキエソ (100.0%)	ウナギ目 (50.0%)	ヘラ科 (100.0%)	-
	優占2位	-	-	-	-	カサコ (25.0%)	-	-
	優占3位	-	-	-	-	幼体 (25.0%)	-	-

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

⑤ 潮間帯生物の状況

事業実施想定区域周辺については、北九州市若松区沿岸部において、平成 25 年 3 月、7 月、10 月及び 12 月に北九州市により付着動物の調査が行われている。調査地点は図 3.1-37 に、調査結果を表 3.1-56～表 3.1-57 に示す。

季節ごと出現種類数は 5 種～61 種、個体数は 133 個体/m²～81,862 個体/m² の範囲にあり、種類数は季節による大きな違いは見られず、個体数は春季、夏季に多い傾向がみられる。分類群別にみると、軟体動物門、節足動物門の割合が高い。



凡例

● 付着動物調査地点

□ 事業実施想定区域

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成 27 年 8 月）

図 3.1-37 付着動物の調査地点

表 3.1-56 付着動物の調査結果 (1/2)

【春季】

調査時期：平成25年3月7日

調査地点	St. 8			St. 9			
	高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯	
種類数	5	31	37	5	36	57	
個体数 (個体/m ²)	133	2,710	2,451	333	81,862	3,642	
湿重量 (g/m ²)	15.77	1,129.79	1,419.32	257.99	6,748.54	664.63	
個体数	環形動物門	0 (0.0%)	977 (36.1%)	854 (34.8%)	0 (0.0%)	1,331 (1.6%)	1,810 (49.7%)
	軟体動物門	111 (83.5%)	1,133 (41.8%)	1,199 (48.9%)	100 (30.0%)	78,232 (95.6%)	233 (6.4%)
	節足動物門	22 (16.5%)	589 (21.7%)	155 (6.3%)	233 (70.0%)	2,178 (2.7%)	1,010 (27.7%)
	その他動物門	0 (0.0%)	11 (0.4%)	243 (9.9%)	0 (0.0%)	121 (0.1%)	589 (16.2%)
	合計	133 (100.0%)	2,710 (100.0%)	2,451 (100.0%)	333 (100.0%)	81,862 (100.0%)	3,642 (100.0%)
主な出現種	優占1位	コガモガイ 軟体動物 (42.1%)	ヤッコガサシコガイ 環形動物 (27.9%)	ヒバリガイイモトキ 軟体動物 (28.5%)	イワフジツボ 節足動物 (39.9%)	ヒバリガイイモトキ 軟体動物 (71.4%)	Syllinae亜科 環形動物 (12.2%)
	優占2位	ベッコウガサガイ 軟体動物 (16.5%)	ヒバリガイイモトキ 軟体動物 (18.5%)	ヒバリガイ 軟体動物 (12.2%)	クロフジツボ 節足動物 (30.0%)	ムラサキイコガイ 軟体動物 (21.9%)	チリコエビ科 節足動物 (7.6%)
	優占3位	アラレタマキガイ 軟体動物 (16.5%)	クロフジツボ 節足動物 (9.9%)	Syllinae亜科 環形動物 (6.8%)	ベッコウガサガイ 軟体動物 (20.1%)	シリケンウミミ 節足動物 (2.2%)	エリノササガサシコガイ 環形動物 (5.2%)
		イワフジツボ 軟体動物 (16.5%)					
		節足動物 (16.5%)					

【夏季】

調査時期：平成25年7月23日

調査地点	St. 8			St. 9			
	高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯	
種類数	5	21	57	11	27	61	
個体数 (個体/m ²)	166	1,287	10,354	632	47,608	6,484	
湿重量 (g/m ²)	22.00	1,325.88	1,418.63	388.44	10,697.87	2,153.20	
個体数	環形動物門	0 (0.0%)	78 (6.0%)	731 (7.1%)	22 (3.5%)	1,110 (2.3%)	775 (12.0%)
	軟体動物門	66 (39.8%)	465 (36.1%)	2,166 (20.9%)	255 (40.3%)	39,755 (83.5%)	1,277 (19.7%)
	節足動物門	100 (60.2%)	644 (50.1%)	7,413 (71.6%)	355 (56.2%)	6,632 (13.9%)	3,610 (55.7%)
	その他動物門	0 (0.0%)	100 (7.8%)	44 (0.4%)	0 (0.0%)	111 (0.2%)	822 (12.7%)
	合計	166 (100.0%)	1,287 (100.0%)	10,354 (100.0%)	632 (100.0%)	47,608 (100.0%)	6,484 (100.0%)
主な出現種	優占1位	イワフジツボ 節足動物 (60.0%)	クロフジツボ 節足動物 (28.4%)	シリトナガキ 軟体動物 (17.4%)	イワフジツボ 節足動物 (36.8%)	ヒバリガイイモトキ 軟体動物 (33.0%)	Polycheria sp. 節足動物 (14.0%)
	優占2位	アラレタマキガイ 軟体動物 (20.0%)	ベッコウガサガイ 軟体動物 (14.7%)	Jassa sp. 節足動物 (11.4%)	ウガキ 軟体動物 (33.3%)	ムラサキイコガイ 軟体動物 (24.3%)	ニホコエビ 節足動物 (9.2%)
	優占3位	ベッコウガサガイ 軟体動物 (6.7%)	イワフジツボ 節足動物 (8.6%)	Ampithoe sp. 節足動物 (9.4%)	シリケンウミミ 節足動物 (12.3%)	チリハキガイ 軟体動物 (22.7%)	イソコエビ 節足動物 (9.2%)
		コガモガイ 軟体動物 (6.7%)	シリケンウミミ 節足動物 (8.6%)				
		コビトウラズガイ 軟体動物 (6.7%)					
		軟体動物 (6.7%)					

【秋季】

調査時期：平成25年10月19日

調査地点	St. 8			St. 9			
	高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯	
種類数	7	23	46	12	46	57	
個体数 (個体/m ²)	221	1,707	1,504	1,855	21,755	4,539	
湿重量 (g/m ²)	153.77	3,388.21	1,337.06	797.79	8,978.99	285.43	
個体数	環形動物門	0 (0.0%)	210 (12.3%)	642 (42.7%)	0 (0.0%)	2,176 (10.0%)	1,620 (35.7%)
	軟体動物門	177 (80.1%)	909 (53.3%)	199 (13.2%)	533 (28.7%)	16,311 (75.0%)	110 (2.4%)
	節足動物門	44 (19.9%)	588 (34.4%)	419 (27.9%)	1,322 (71.3%)	2,690 (12.4%)	2,365 (52.1%)
	その他動物門	0 (0.0%)	0 (0.0%)	244 (16.2%)	0 (0.0%)	578 (2.7%)	444 (9.8%)
	合計	221 (100.0%)	1,707 (100.0%)	1,504 (100.0%)	1,855 (100.0%)	21,755 (100.0%)	4,539 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ベッコウガサガイ 軟体動物 (45.2%)	クロフジツボ 節足動物 (22.1%)	イソツルビゲコガイ 環形動物 (14.8%)	イワフジツボ 節足動物 (50.3%)	ヒバリガイイモトキ 軟体動物 (47.1%)	サンカクジツボ 節足動物 (29.9%)
	優占2位	アラレタマキガイ 軟体動物 (14.9%)	ヒザラガイ 軟体動物 (18.9%)	シロボイモトキ 脊索動物 (14.0%)	シリケンウミミ 節足動物 (18.0%)	ムラサキイコガイ 軟体動物 (15.5%)	カスミコガイ 環形動物 (5.4%)
	優占3位	シリケンウミミ 節足動物 (14.9%)	シリケンウミミ 節足動物 (7.8%)	イソコエビ 節足動物 (7.4%)	ウガキ 軟体動物 (11.4%)	チリハキガイ 軟体動物 (4.2%)	イワツルビゲコガイ 環形動物 (4.9%)
		ウガキ 軟体動物 (7.8%)					Jassa sp. 節足動物 (4.9%)
		軟体動物 (7.8%)					

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成27年8月）

表 3.1-57 付着動物の調査結果 (2/2)

【冬季】 調査時期：平成25年12月2日

調査地点	St. 8			St. 9			
	高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯	
種類数	8	34	43	10	46	50	
個体数 (個体/m ²)	555	5,654	3,995	999	10,410	5,516	
湿重量 (g/m ²)	108.66	574.65	914.97	275.88	3,402.84	1,668.68	
個体数	環形動物門	0 (0.0%)	1,834 (32.4%)	942 (23.6%)	0 (0.0%)	1,656 (15.9%)	975 (17.7%)
	軟体動物門	188 (33.9%)	1,154 (20.4%)	943 (23.6%)	354 (35.4%)	6,454 (62.0%)	444 (8.0%)
	節足動物門	367 (66.1%)	2,533 (44.8%)	1,410 (35.3%)	634 (63.5%)	2,100 (20.2%)	3,542 (64.2%)
	その他動物門	0 (0.0%)	133 (2.4%)	700 (17.5%)	11 (1.1%)	200 (1.9%)	555 (10.1%)
	合計	555 (100.0%)	5,654 (100.0%)	3,995 (100.0%)	999 (100.0%)	10,410 (100.0%)	5,516 (100.0%)
主な出現種	優占1位	イワシヅクホ [*] 節足動物 (30.1%)	シンカクフジヅホ [*] 節足動物 (40.9%)	シンカクフジヅホ [*] 節足動物 (28.4%)	イワシヅクホ [*] 節足動物 (45.6%)	ヒバリガ [*] イモトキ 軟体動物 (29.5%)	シンカクフジヅホ [*] 節足動物 (56.0%)
	優占2位	シリケンウミミ 節足動物 (28.1%)	ウツコカンサ [*] シコ [*] カイ 環形動物 (18.7%)	ハミコ 軟体動物 (11.1%)	シリケンウミミ 節足動物 (16.7%)	ムラサキイソコ [*] イ 軟体動物 (11.8%)	イソコエビ [*] 節足動物 (3.8%)
	優占3位	ベッコウガ [*] サカ [*] イ 軟体動物 (25.9%)	ヒメハダ [*] ヒサ [*] ラカ [*] イ 軟体動物 (7.7%)	キメハダ [*] ホシムシ 星口動物 (9.5%)	カガキ 軟体動物 (14.4%)	シンカクフジヅホ [*] 節足動物 (7.9%)	Typosyllis sp. 環形動物 (3.4%)

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成 27 年 8 月）